
東京都金属プレス工業会様
EDI導入実証検証について

2026年 4月6日

共通EDI推進サポータネットワーク

『受発注業務DX』研修 & 実証検証の概要

東京都金属プレス工業会

設立： 1964年11月

会員数： 152社

目的： 関東一円の金属プレス業界・会員企業の発展に取組。人材育成・安全対策の支援等の事業を展開。

施策： 「デジタル技術を活用した販売力強化プロジェクト」（東京都支援事業）に取組中

2月Webカンファレンスに
貫井専務理事 御登壇

<プログラムの特徴>

◆企業個別では解決困難な企業間や技術的課題の解決に必要なスキル・ノウハウの習得が可能！

◆受講後直ぐに行動に繋げることが可能なプログラム！

- ・実際のIT製品・サービスのデモ等を含む、すぐに活用可能な実践的なプログラム構成です。
- ・モデル企業に対して、実際に業務課題のヒアリング・分析、解決策の検討・提案を実施します。
- ・ステップ1「研修」はリモート（ZOOM）で行います。
- ・ステップ2「EDI導入の実証実験」はリアル（モデル企業）で実施します

【ステップ1 EDI連携研修】※内容は受講効果を高めるために変更になる場合があります。

回	内容	実施概要	開催予定日	開催方法
1	DX推進の必要性と受発注業務のデジタル化の動向（座学）	・中小企業の受発注業務の現状と課題 ・EDIの現状 ・中小企業共通EDIの概要（業界としての標準化の必要性）	10月9日（木）	リモート
2	受発注業務の概要（座学）	・企業内の基幹業務の全体像 ・紙・FAXに依存した受発注業務の現状と課題	10月16日（木）	リモート
3	自社の受発注業務の課題の抽出（座学・ワーク・ディスカッション）	・自社の受発注業務の課題抽出 ・発表・ディスカッション	10月23日（木）	リモート
4	中小企業共通EDIソリューションの紹介とデモ（座学・デモ）	・中小企業共通EDIソリューションの紹介とデモ	10月30日（木）	リモート
5	中小企業共通EDI導入による課題解決の検討（座学・ワーク・ディスカッション）	・ケース企業の課題解決検討 ・発表・ディスカッション	11月6日（木）	リモート
6	先進事例紹介（座学・ディスカッション）	・中小企業共通EDI導入企業の事例紹介 ・実際の導入企業からのコメント ・課題解決について意見交換	11月13日（木）	リモート

【ステップ2 EDI導入実証実験】※開催予定日はモデル企業と調整します

回	内容	実施概要	開催予定日	開催方法
1	モデル企業（発注企業） 現状分析	・モデル企業（発注企業）の概要確認 ・現場ヒアリング	・11月～1月に実施します。	実地
2	提案検討会	・モデル企業の課題・企業状況の整理 ・提案内容の検討		実地
3	共通EDI（試行的）導入支援	・作業手順の確認 ・情報項目マッピングなど		実地
4	モデル企業（受注企業） 現状分析	・共通EDI試験導入支援 ・受注作業の確認		実地
5	報告会	・モデル企業（発注企業、受注企業）の経過報告 ・総評		実地

※モデル企業は金属プレス工業会内の発注企業と受注企業の2社、2パターンを行う予定です



① ITコーディネータ協会 事務局

【メンバー】・川内 晟宏

・野田 和巳（講師）

・鈴木 修

- ・研修企画、教材開発
- ・研修講師
- ・技術サポート
- ・研修の実施
 - ➡リモート研修開催
 - ➡教材・研修録画の提供

② 共通EDI推進サポータ

【メンバー】・宗像 立夫

・江原 博

・伊野 修士

・伊藤 弘美

・村上 出



- ・研修サブ講師、実証検証支援
- ・発注企業・受注企業での立ち合い
 - ➡IT環境、業務内容等のヒアリング
 - ➡マッピング作業等システム的な作業を行う



③ 共通EDI認証製品・サービス提供企業

株式会社グローバルワイズ

担当者：廣瀬 賢次郎 他

- ・共通EDIプロバイダサービス提供
- ・デモンストレーション教材提供
- ・共通EDIプロバイダサービス導入支援
- ・実証検証支援



団体名 : 共通EDI推進サポートネットワーク（つなぐITコンソーシアム 特別会員）
代表 : 村上 出
会員数 : 22名（2025/9現在、全員ITコーディネータ＋共通EDI推進サポート）
設立 : 2020年9月
事業内容 : 中小企業庁推奨の「中小企業共通EDI」の導入促進活動を通して、
企業間取引の電子化、各企業の省力化・ペーパーレス化を実現します。
・研修事業 企業間の業務効率化を見直す研修を実施
・支援事業 中小企業共通EDIによる企業間取引のコンサルティング・
ベンダー選定・導入支援

実証検証 : リーダー 村上 出

サポートメンバー 第1班 宗像 立夫、伊野 修士 : A社・B社
 第2班 江原 博、伊藤 弘美 : C社

(12/3 キックオフ

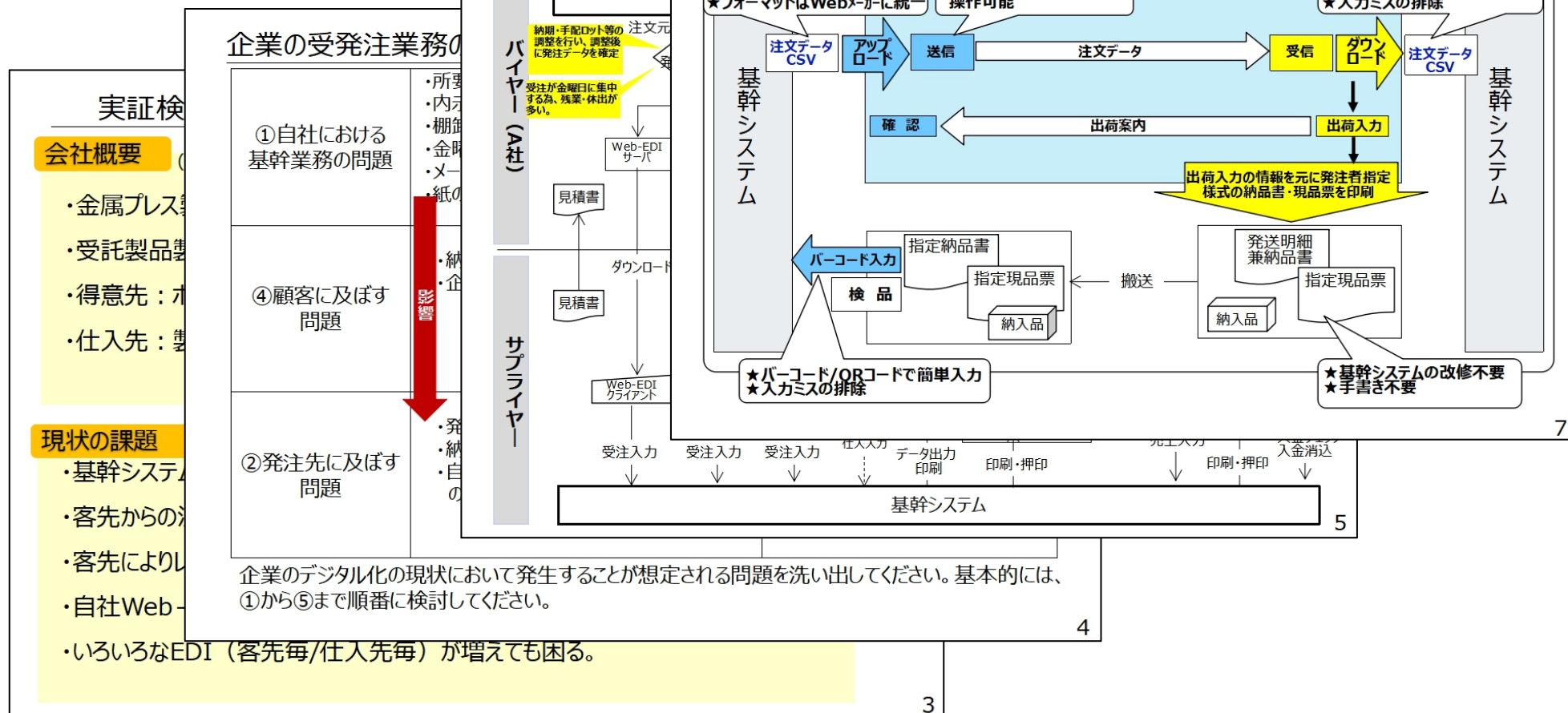
・概要紹介（目的・日程・作業内容）

・実証検証の紹介

・A社B社合同 ）

回	日程	内容	実施概要	使用資料	備考
1	12/9 (B社) 12/10 (A社)	現状分析 ※課題整理	- 概要確認 ➡現場でのヒアリング（作業の流れ確認） - 課題/企業状況の整理 - データ連携する項目は事前に確定しておく （注文書/注文データ 等）	・ヒアリングシート	
2	12/17	提案検討会 ※メリット確認	- 課題・企業状況の整理 - 提案内容の検討（どの範囲で実証するか） - 必須情報項目の調整 （測定結果まとめシート、マッピング） - EcoChange概要紹介 - EcoChange 動作環境確認	- 現状業務の業務分析 - 受発注業務の現状分析 - 受注業務の業務フロー - 共通EDIによる業務フロー - EcoChange 概要紹介	B社 （10:00～12:00） A社 （13:00～15:00） ※資料たたき台をサ ポータ準備
3	1/15	共通EDI（試行的）導入支援 ※EDI実装	- 共通EDI試験導入支援 （EcoChangeインストール） - 情報項目マッピング - EDI導入後の作業手順の確認	- EcoChange インストール資料 - EcoChange操作マニュアル - 検証用テストデータ - マッピングデータ	A社・B社合同 （13:00～15:00）
4	1/21	受発注作業確認 ※EDI作業測定	- 発注企業、受注企業で操作手順の確認 - 受注作業の確認 - 検証結果の確認（感想・要望）	・測定結果まとめシート	A社・B社合同 （13:00～15:00）
5	1/29	報告会	- 実証検証の報告 - 総評	・実証検証報告書	A社・B社合同 （10:00～12:00）

- ・ヒアリング内容を元に、現状のまとめ
- ・業務フローの確認
- ・実証検証の範囲/内容確認
- ・伝票等の入手/内容確認



・EcoChangeの概要紹介

・共通EDIの概要紹介

EcoChangeについて

国連CEFACT XMLクラウドEDIサービス「EcoChange」は、注文/注

自動車部品製造業向け事例（部品納入の運用）

① 発注はEDIデータとして仕入先に転送。仕入先でEDI受注データを確認後、帳票類を印刷。

共通EDI～よくある質問

量うの？ (2/2)

なものでは？

クライアントの起動、ログイン

・ログイン時に企業コード、ユーザーIDと紐づく設

クライアントのインストール

1. EcoChangeサーバへの接続。

アカウントとユーザー

アカウント - A社

アカウント - B社

①注文データ読み込み②注文データ送信

①-1メイン画面から【注文情報-送信-】を押下し、注文情報一覧画面を起動。

設定画面

メニューバー

データマッピング設定

メインメニュー

システム管理 自動処理(A) ウィンドウ(W)

1.タイトルバー

2.メニューバー

3.アカウント情報

EcoChange 初期セットアップ
～起動の仕組み～

中小企業共通EDI準拠 共通EDIプロバイダ認証サービス
「EcoChange」

EcoChange 操作デモ

2026年1月15日

共通EDI推進サポータネットワーク
株式会社 グローバルワイズ

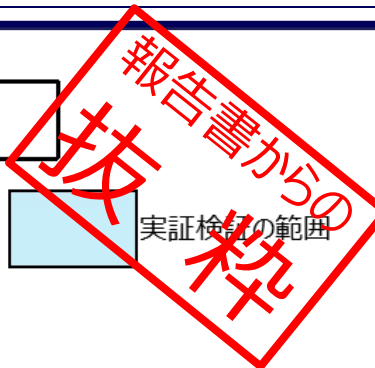
・セットアップ作業の紹介

・環境設定/マッピング

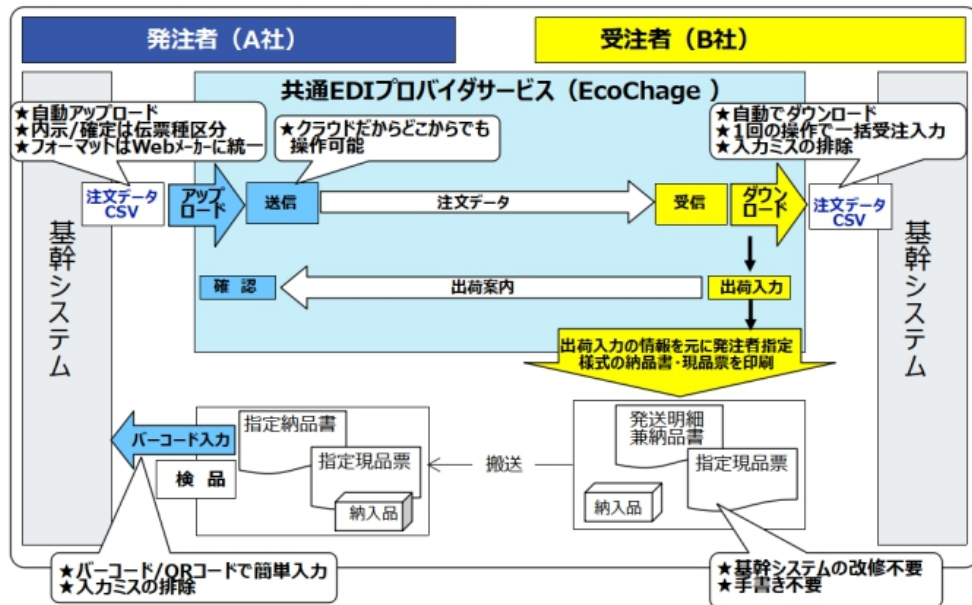
・主な機能紹介

・操作説明（実証検証の機能中心）

推進サポータ
ネットワーク



発注業務 連携イメージ【After（導入後）】

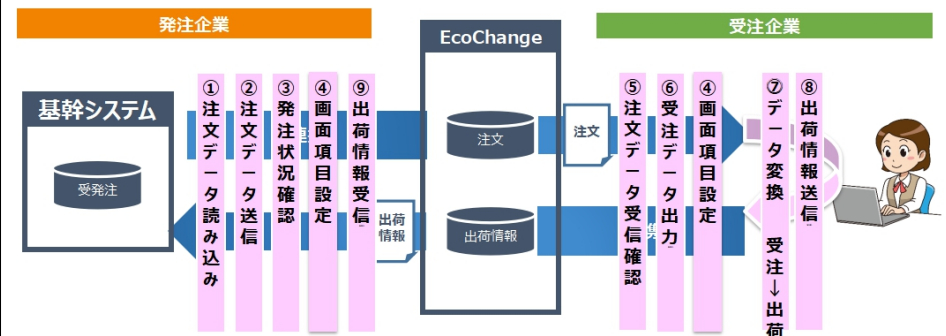


7

- ・実証検証の範囲の確認
- ・実証検証と連携システムの確認

実証検証の流れ

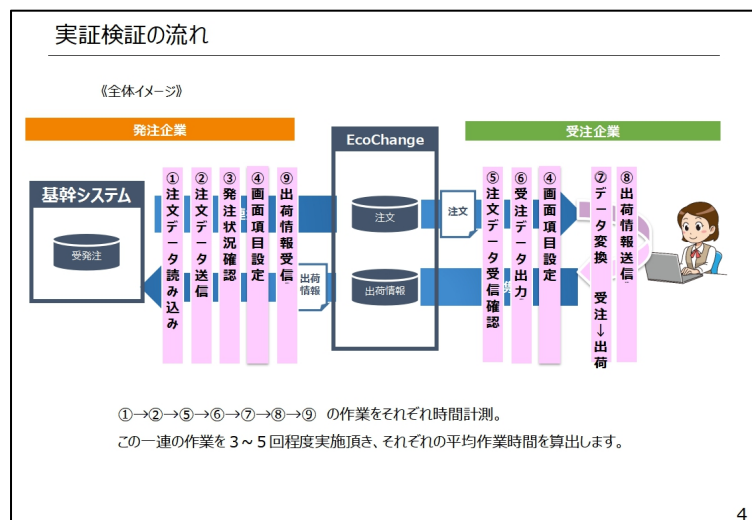
《全体イメージ》



14

- ・実証検証の業務の確認

- ・発注～受注～出荷情報の作業内容の確認
- ・EcoChangeを使用した作業時間の計測
- ・検証結果の確認（定量的観点・定性的観点からの感想/課題/要望等）



・EcoChangeでの
作業時間測定

実証検証 計測

実施 番号	対象企業	業務名	タスクNo.	タスク内容	使用ツール	測定件数： 件					合計
						1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
①	[企業名]	注文 (発注)	①-1	注文データ作成	EcoChange	0	0	0	0	0	0
			①-2	発注データセットアップ	EcoChange	0	0	0	0	0	0
			①-3	エージェントから送信	EcoChange	0	0	0	0	0	0
②	注文確認 (受注)	注文データ (受注)	②-1	注文データ受信	EcoChange	0	0	0	0	0	0
			②-2	注文データ確認	EcoChange	0	0	0	0	0	0
			②-3	注文データ確認	EcoChange	0	0	0	0	0	0
③	出荷情報	出荷情報	③-1	出荷データ作成	EcoChange	0	0	0	0	0	0
			③-2	出荷データ確認	EcoChange	0	0	0	0	0	0
			③-3	出荷データ確認	EcoChange	0	0	0	0	0	0
			③-4	出荷データ確認	EcoChange	0	0	0	0	0	0
			③-5	出荷データ確認	EcoChange	0	0	0	0	0	0
			③-6	出荷データ確認	EcoChange	0	0	0	0	0	0
④	入荷	入荷	④-1	入荷データ作成	EcoChange	0	0	0	0	0	0
			④-2	入荷データ確認	EcoChange	0	0	0	0	0	0
			④-3	入荷データ確認	EcoChange	0	0	0	0	0	0
			④-4	入荷データ確認	EcoChange	0	0	0	0	0	0
作業時間合計						0	0	0	0	0	0

・現行業務の作業時間
(事前に計測)

実証検証まとめ

実施 番号	対象企業	業務名	タスクNo.	タスク内容	使用ツール	測定件数： 件		平均時間(秒)
						実施回数	成功回数	
①	[企業名]	注文 (発注)	①-1	注文データ作成	EcoChange	1	1	900
			①-2	発注データセットアップ	EcoChange	1	1	2,700
			①-3	エージェントから送信	EcoChange	1	1	900
②	注文確認 (受注)	注文データ (受注)	②-1	注文データ受信	EcoChange	1	1	900
			②-2	注文データ確認	EcoChange	1	1	900
			②-3	注文データ確認	EcoChange	1	1	900
③	出荷情報	出荷情報	③-1	出荷データ作成	EcoChange	1	1	2,400
			③-2	出荷データ確認	EcoChange	1	1	60
			③-3	出荷データ確認	EcoChange	1	1	60
			③-4	出荷データ確認	EcoChange	1	1	60
			③-5	出荷データ確認	EcoChange	1	1	60
			③-6	出荷データ確認	EcoChange	1	1	60
④	入荷	入荷	④-1	入荷データ作成	EcoChange	1	1	720
			④-2	入荷データ確認	EcoChange	1	1	360
			④-3	入荷データ確認	EcoChange	1	1	360
			④-4	入荷データ確認	EcoChange	1	1	360
作業時間合計						15,900	15,900	15,900

・5回計測し平均時間算出

・参加者各位からコメント



発注から入荷までの業務を対象に、月当たりの作業時間に換算して比較します。

報告書から5の
資料

現行

・4,972分
(83時間)

今回検証
範囲

・4,134分
(69時間)

EDI業務
改善

・2,379分
(40時間)

①現行業務のまま、EcoChange を適用

A社	794分/月	→	808分/月	102% (2%増)
B社	4,178分/月	→	3,325分/月	80% (20%減)
トータル	4,972分/月	→	4,134分/月	83% (17%減)

※既にシステムで業務を行っており、大きな改善は見られない。

一部B社で、レスポンス改善がみられる。

②現行業務の範囲でEDI業務の改善（想定）

- | | |
|-------------------|----------|
| 1) 送受信の自動処理化 | 25分改善 |
| 2) 発送明細兼納品書印刷の効率化 | 1,615分改善 |
| 3) 積載明細書の出力見直し | 953分改善 |

A社	794分/月	→	680分/月	86% (14%減)
B社	4,178分/月	→	1,699分/月	41% (59%減)
トータル	4,972分/月	→	2,379分/月	48% (52%減)

※積載明細及び発送明細兼納品書の運用見直しにより

大幅な改善が可能。



☆電子帳簿保存法やインボイス制度に則ったEDI化の推進

企業間取引は、電子データが前提になりつつある。作成・捺印・送付・保管の業務を、電子データを前提にする事で、業務の効率化・標準化が可能となる。

☆有償支給品のEDI化（有償支給品業務の見直し）

EcoChangeを利用し、有償支給品の出荷情報を送信・受信し、仕入明細を送信・受信する事で、相互の受注出荷・発注仕入の証跡となる。（直送品も含む）

☆内示/確定注文の運用見直し

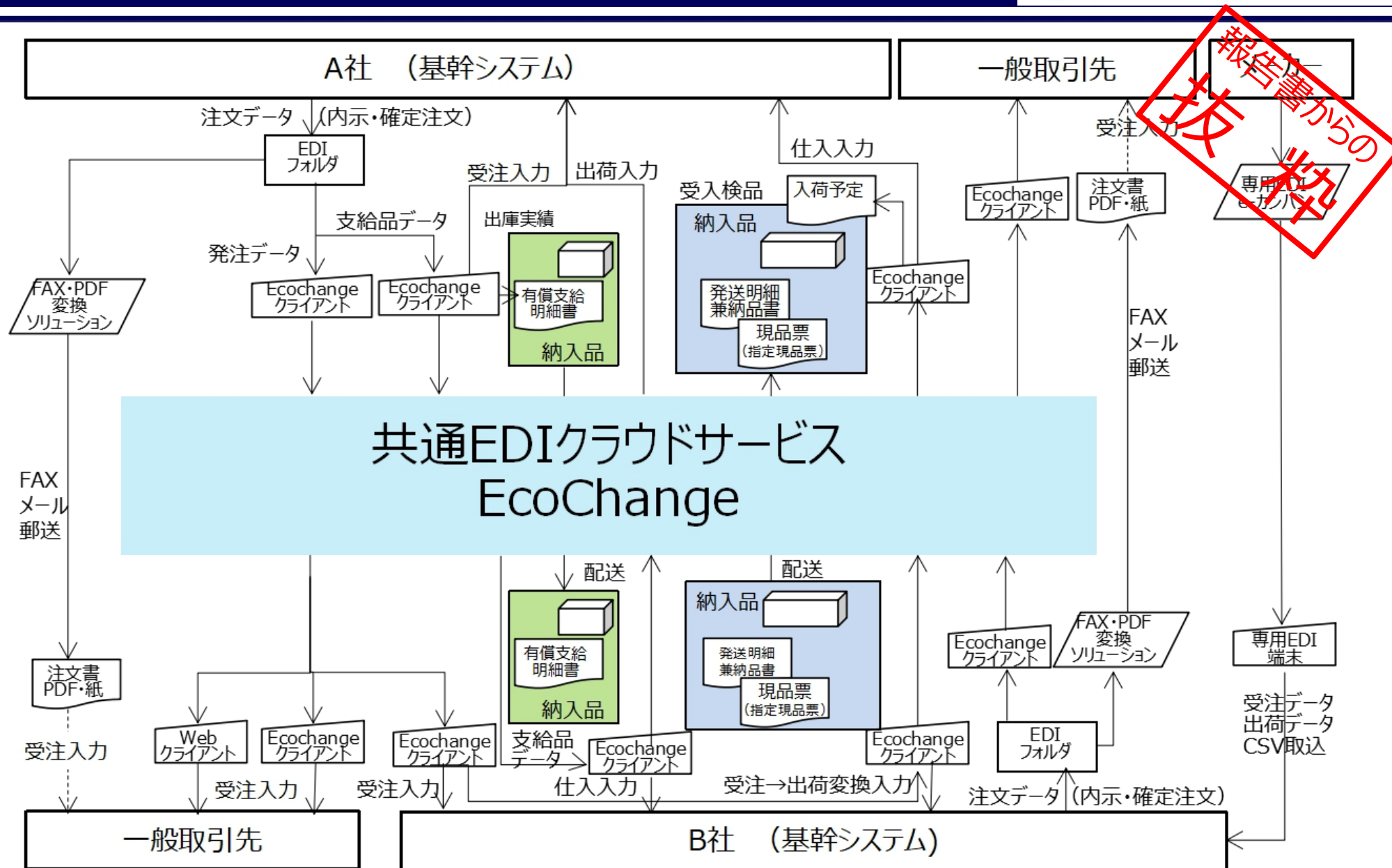
内示と確定を紐付ける事により運用改善される。しかし、紐付けには運用見直しが必要となる。業務改善に見合った伝票の紐づけを考慮する。

☆適用対象企業の拡大

A社様は、B社様に加えて既設Web－EDIでの取引企業にも適用が可能。
加えて、共通の仕様でデータ連携が可能に。（取引先は、EDI端末とWeb端末の選択が可能）
B社様は、受注のEDI化に加えて発注のEDI化も適用可能。

☆メール（PDF添付）FAXのシステム連携

当面、メール・FAXが残る事を前提にメール・FAX連携ソリューションを検討。
基幹システムからは注文データを共通EDI連携フォーマットで出力し、外部でPDF・FAXにそれぞれ変換し取引先に送付。



・グローバルワイズ様とEDI推進パートナーとの連携

- －テクニカルパートナー研修を切っ掛けに実証検証のスキルを習得
- －入念な事前打合せ
（資料作成、環境設定、実証のストーリー作り 等）
- －当日のQA対応

・短期間での実証検証の実現

- －業界動向/EDIの状況 等をネット/ChatGPTで事前調査
- －少ない回数で報告までの日程が決まっているからこそ各回ごとの事前準備
- －効率的な業務ヒアリング/実証検証の準備（記入シートの活用）
- －リモートを駆使したお客様との信頼関係の構築

・業務提案に踏み込んだ実証検証

- －基幹システムを含めた課題の把握
- －実証検証の報告に留まらず業務改革に踏み込んだ提案
- －今後のお客様内での業務改革への切っ掛けとなれば

御清聴ありがとうございました。